

登録コード	A3591368		開講年度	2026			
授業科目	プレゼンテーション演習					担当教員	荒瀬 輝夫
英文授業名	Presentation						
単位数	1	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している					プレゼンテーションについて学ぶことを通じて、専門的な知識や研究能力を身につける。	
	【2022年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					プレゼンテーションについて学ぶことを通じて、地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を身につける。	
	2 0 2 6 A3 編（24A）, 2 0 2 5 A3 編（23A）, 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					プレゼンテーションについて学ぶことを通じて、専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を身につける。	
	【2024年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					プレゼンテーションについて学ぶことを通じて、地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、プレゼンテーションに必要なスライドやポスターの作成方法について解説する。また、各研究分野において、上級生のプレゼンテーションを聴講するとともに、4年次における研究計画の発表につながる論文の紹介を行う。						
(5)授業計画	1 プレゼン資料の作り方（資料配布） 2 口頭での説明のしかた（資料配布） 3-15 他人のプレゼンテーションを聴講し、自分の担当回で、自分の研究分野に関連した論文について、スライド等を用いて発表する。 なお、授業の振り返りとして、最終回の授業の最後に授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	自主学習では参考書の使用を薦める。また、各回で配付される発表レジュメなども活用して自主学習に役立ててもらいたい。						
(7)成績評価の基準	演習への取り組み（プレゼン資料作成を含む）において、1）目的と内容を把握し、2）作業を積極的・適切に行い、3）論理的かつ効果的にまとめることが求められる。 1～3が十分に達成されており、必要に応じて文献やHP等の情報を参照・引用して理解が深められていれば「卓越している」、1～3が充分達成されていれば「かなり上にある」、概ね達成されていれば「やや上にある」、基本的な項目が達成されていれば「水準に達している」とする。						
(8)事前事後学習の内容	予告テーマについての事前学習と、配布資料や参考書・HPなどをもとにした事後学習を、それぞれ2時間程度行ってください。						
(9)テストやレポートの予定	なし。						
(10)成績評価の方法	受講態度と最終回に提出した課題の内容などを総合的に評価。 評価基準は以下の通り。 秀：90点以上（授業の達成目標の水準からみて卓越している） 優：80～89点（授業の達成目標の水準よりかなり上にある） 良：70～79点（授業の達成目標の水準よりやや上にある） 可：60～69点（授業の達成目標の水準にある） 不可（D）：50～59点（授業の達成目標の水準よりやや下にある） 不可（E）：49点以下（授業の達成目標の水準よりかなり下にある）						
(11)質問、相談への対応および連絡先	研究室で随時対応。						
(12)履修上の注意	とくになし。						
【教科書】	特に指定しない。						
【参考書】	これから学会発表する若者のために -ポスターと口頭のプレゼン技術-（酒井聡樹著、共立出版） 学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術（宮野公樹著、化学同人）						